



独自のノウハウを積み重ね、ミクロン単位の精度で製品を大量に製造する技術を持つ。原料の段階からモノづくりを手がけることで、「真似のできないもの」を創り出している

んが仕事をやるうえで心がけているのは、疑問が生じるたびに製造現場まで足を運んで自分の目と耳で理解すること、そして悩んだときには近くで見守ってくれる上司や先輩社員に相談することだとか。「いろんなチームの人と一緒に仕事をしているので、部署の垣根を超えて協力し合っています。生産企画課というだけあって、物流の企画を立ち上げて進めることもあります。若手社員も声を上げれば、チャレンジングな仕事を担当させてもらえるので、モチベーションアップにもつながっています」。

社内では定期的に勉強会や研修が行われており、必要な専門知識やスキルが習得できる環境が整っているのも魅力的。さらに、ライフステージの変化に柔軟に対応できる働き方を推進しており、女性社員の活躍できる場がどんどん増えているという。「これからも、自分の仕事に誇りを持てるように積極的に努力を続けていきたいです。そのためには広い視野で課題をとらえ、それに対する解決策を自分なりにしっかりと考えられるようになりたいですね」と、将来の目標を目を輝かせながら語ってくれた。



① 一日のスケジュール

- 8:00 出社
朝礼後は、一日のスケジュールやメールのチェックから業務をスタート
- 9:30 事務所での業務
報告資料の作成に加え、製造・技術の部署の関係者との打合せも入念に行う
- 11:30 昼食・休憩
社内の食堂でランチタイム。メニューも豊富で嬉しい場
- 12:30 工場での業務
ストップウォッチで作業時間を測定。事務所に戻って事務作業や企画の打合せも
- 17:00 退社
一日の業務の振り返りと翌日の作業の確認を行う

「世界に通用するモノづくりに携われるよろこびを実感しています。」

現場の課題に気づき、考え、解決を目指して行動する。豊かな自然が広がる瀬戸内市。その一角にあるのが、約25万平方メートルの広大な敷地に工場を構え、電子部品を世界に供給する総合電子部品メーカー「岡山村田製作所」だ。国内外100数社からなる「村田製作所」グループにおいて、同社は移動体通信機器をメインターゲットとする中核拠点に位置づけられている。近年、飛躍的に進化する5G対応スマートフォンやウェアラブル端末などにかかわる製品を次々と生み出し、私たちの暮らしに不可欠な通信インフラを支える重要な役割を担っている。



誇りをもって働ける会社

同社には親子で働く社員も少なくない。「仕事に誇りを持っているからこそ、わが子に就職をすすめる」という。互いに働く姿を見て刺激をもらうこともあるそう



ごとうのか 後藤帆乃香さん Profile

県外の大学で公共経済を学ぶ。就活中に、「岡山にしながら世界に必要な電子部品の生産に携われる」ことに興味を持ち、2019年入社。第二製造部生産企画課で、モノづくりの原点を築き上げるIEとして活躍。

交流を深める福利厚生施設

2019年に完成した福利厚生施設。社員が安定的に高いパフォーマンスを発揮できるよう、快適な職場づくりを整備している。社員だけでなく、地域の人でも利用できる



平均年齢36歳！若手社員が活躍

若手社員がのびのびといるなことにチャレンジできるサポート体制が整っている。また、社員同士のチームワークもよく、技術や経験を共有し合えるのも強み



株式会社岡山村田製作所

- ◆事業内容 / 電子部品製造
- ◆設立 / 1992年4月
- ◆資本金 / 4億8000万円
- ◆従業員数 / 2158名
- ◆代表者 / 唐木信太郎
- ◆本社所在地
瀬戸内市邑久町福元77
TEL.0869-24-0911
https://corporate.murata.com/ja-jp/group/okayamamura



第二製造部生産企画課に所属する入社2年目の後藤さんは、製造ラインの企画設計・改善を担当するIE（インダストリアル・エンジニアリング）として勤務。「モノづくり」というと理系のイメージですが、文系女子も活躍できる職場なんです。というれそうに話してくれました。おもな仕事としては、製品にかかる人件費や設備費、材料費などの原価を把握し、たうえで、製造現場における問題解決やコストダウンを図ること。エンジニアや現場スタッフなどの部分が削減できるかを協議、改善していくことで、効率よくプロセスを実行し、求められるコストを実現していくのだそう。後藤さん